



TITLE:

# 『諸國民の富』のダブリン版について

AUTHOR(S):

河上, 肇

---

CITATION:

河上, 肇. 『諸國民の富』のダブリン版について. 經濟論叢 1923, 17(1): 69-76

ISSUE DATE:

1923-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128045>

RIGHT:

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第七十卷 第一號

大正二十二年七月一日發行

## 論叢

賣上税の缺點……………法學博士 神戸 正雄  
私經營統計概論……………法學博士 財部 靜治  
文化的認識と歴史的認識……………法學士 恒藤 恭

## 時論

農村問題と其の救済策……………法學博士 河田 嗣郎

## 說苑

『諸國民の富』のダブリン版に就て……………法學博士 河上 肇  
歴史派經濟學發達の徑路……………法學士 山口 正太郎  
公娼の前借金に就て……………經濟學士 岡崎 文規  
中世末期に於ける村落の結合を論ず……………牧野 信之助

## 雜錄

米國の新關稅法に就て……………法學士 高橋 康順  
新マルサス主義英語通俗書解題……………理學士 山本 宣治  
アダム・スミス生誕二百年記念會記事……………委員

『諸國民の富』のダブリン版について

河 上 肇

アダム・スミスの著した *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations* のダブリン版が、著者の生時に刊行されてゐたことは、既に或る學者の注意したところである。例へば、ボナアは、ロンドンから出た Strahan and Cadell 版のほかに、ダブリン版のあつたことを述べて、次の如く言つてゐる。<sup>1)</sup>

Besides the above (London editions) there are Dublin editions, 1785 and 1793, in 2 vols. „pirated” from the 4th and 5th editions.

また明治四十四年四月に發行された『三田學會雜誌』の『アダム・スミス記念號』には、小泉教授の『アダム・スミス略傳並に國富論諸版本に就て』といふ論文が載つてゐるが、そのうちにも次の如く述べてある。<sup>2)</sup>

1) Palgrave, Dictionary of P. E. Vol. III, p. 423.

2) 『三田學會雜誌』第5卷, 第3號, 229頁

『……………此外に版權を侵害して第四版及び第五版を剽窃した Dublin editions がある。一七八五年並に一七九三年に出版された何れも二卷より成るものである。』

この記事は、或は前掲のボナアに據られたものかと想像するが、教授の同じ論文の末尾にある『附言』には、更に次の如く述べられてある。

『此小文を草し終つた後で慶應義塾圖書館近着の國富論原本並に其他の珍貴なる翻刻本を見て、本文に多少の増補と訂正を加へる必要を發見した。國富論初版の出た年即ち一七七六年に早くも Dublin に於て翻刻本（版權侵害？）の現はれた事實の如きは、此記事を書くに就て參考した本には、發見することの出来なかつた新知識である。』

原本の第一版が公にされた同じ年の一七七六年に早くも別にダブリン版の刊行されてゐたことを、最初に指摘したものは、私の知る限りでは、この小泉教授の注意書きである。因にいふ、當時慶應義塾においてスミスの記念會が催されたのは、『慶應義塾圖書館が最近に於て最も珍とす可き國富論原本の諸版並に其他諸版本の殆ど全種類を入手したるを好機として』であつて、『記念會は實に此珍貴なる書籍の陳列展覽をも其目的の一』としたのである。さうして其等の書籍の中から、當時小泉教授は、『諸國民の富』の一七七六年のダブリン版を發見されたものと思はれる。

その後約十二年を経た今年は、恰もスミス生誕後滿二百年に相當するがために、東京、京都等

AN  
INQUIRY  
INTO THE  
NATURE AND CAUSES  
OF THE  
WEALTH OF NATIONS.  
BY  
ADAM SMITH, LL. D.

• AND F. R. S. OF LONDON AND EDINBURGH:  
ONE OF THE COMMISSIONERS OF HIS MAJESTY'S CUSTOMS

IN SCOTLAND;

AND FORMERLY PROFESSOR OF MORAL PHILOSOPHY  
IN THE UNIVERSITY OF GLASOW.

---

THE FOURTH EDITION, WITH ADDITIONS.  
IN TWO VOLUMES.  
VOL. I.

---

DUBLIN:  
PRINTED FOR W. COLLIS, R. MONCRIEFFE, G. BURNET,  
W. WILSON, C. JENKIN, L. WHITE, H. WHITESTONE,  
P. BYRNE, J. CASH, W. M'KENZIE.

---

M DCC LXXXV.

で彼れの記念會が催され、同時に圖書の展覽會が行はれたが、それを機會に、東京方面では如何なる版本が出陳されたのであらうか？ 私は親しく參觀することも出來ず、また其の出陳目錄を入手することも出來ないので、委細を明かにしないが、ただ我が經濟學會の催した圖書記念物展覽會の出品物について、確め得た一二の事實を、次に記録して置きたいと思ふ。

一七八五年に出た『諸國民の富』のダブリン版は、長崎高等商業學校の武藤教授の藏本として吾々の展覽會に出陳されてゐたが、就いて見ると、その扉には明かに第四版としてある。(發行者その他を明かにするために、その扉第一卷の全體を複寫して之を前頁に掲げた)。そこでボナアは之を以て原本の第四版を *pirate* したものと看做したのであらう。しかし原本の第四版は一七八六年に出てゐる。さうして此の偽版とされてゐるダブリン本の第四版は、その前年の一七八五年に出てゐるのである。 *pirate* したと稱されてゐるものが、 *pirate* されたものより、一年先きに出てゐるのである。それは不思議なことを謂はなければならぬ。そこで其の卷頭にある著者の advertisement を調べて見ると、ダブリン本の第四版にある其れは、次のやうになつてゐる。

The first Edition of the following Work was printed in the end of the year 1775, and in the beginning of the year 1776. Through the greater part of the Book, therefore, whenever the present state of things is mentioned, it is to be understood of the state they were in, either about that time, or at some earlier period, during the time

I was employed in writing the Book. *To this fourth Edition*, however, I have made several additions, particularly to the chapter upon Drawbacks, and to that upon Bounties; likewise a new chapter entitled, The Conclusion to the Mercantile System; and a new article to the chapter upon the expences of the sovereign. In all these additions, the present state of things means always the state in which they were during the year 1783 and the beginning of the year 1784.

よく見るに、これはロンドン本の第三版（一七八四年の終に刊行）に附いてゐる advertisement と殆ど全く同じであつて、たゞロンドン本の第三版には *To this third Edition* としてある所が、このダブリン本の謂ゆる第四版には *To this fourth Edition* を改められて居り、また the present year 1784 とある所が、the year 1784 と改められてあるだけである。ところがロンドン本の方の第四版には、著者が新たに第四版に對する序を書いて居り、さうして此の第三版に附せられた advertisement の方は、元々 *To this third Edition* としてあつた所を *To the third Edition* を改めて、(the present year 1784 の present が削られてゐることは、ダブリン版と同じ)、これを第四版の序の前に置いてあるのである。私は此等の點から想像して、このダブリン本の謂ゆる第四版は、ボナアが言ふやうに原本の第四版を pirate したものでなくて、その第三版を pirate したものであらうと思ふ。既に述べたやうに、ロンドン本の第三版は一七八四年の終に刊行された。そこでダブリンの書肆は、之に前記の如き改作を加へ、翌一七八五年に、之を第四版と稱して發行したのであらう。

う。さうして本當の第四版は、更に其の翌年の一七八六年にロンドンから出たのである。

なほ今一つ此のダブリン版の特徴とすべきものは、第二卷の索引の前に appendix が四頁附いてゐることである。さうして、その appendix の前置には、次の如き文字がある。

The two following Accounts are subjoined in order to illustrate and confirm what is said in the Fifth Chapter of the Fourth Book, concerning the Tonnage bounty to the white Herring Fishery. The Reader, I believe, may depend upon the accuracy of both Accounts.

これはロンドン版第三版（全三卷）の第二卷の末尾にあるものゝ複寫であらう。

ボナア及び小泉教授の言はるゝダブリン版の第五版とは、果して如何なるものであらう。不幸にして私は之を手にすることが出来ない。ただ小泉教授の言はるゝ一七七六年のダブリン刊行の第一版（八ッ折、三冊本）なるものは、我が大學の藏書中にも在る。試に其の第一卷の扉の全體を複寫すれば、次頁に示すやうである。

即ち書名、著者名、著者の肩書、發行年代等は、ロンドン版の第一版と全く同じであつて、ただ其の冊數及び發行者を殊にするのみである。なほ之を前記の一七八五年刊行のダブリン版と比較するに、合同發行書肆の名前に若干の出入があるが、W. Colles, Moncriffe, Wilson, Jenkin 等



AN  
INQUIRY  
INTO THE  
NATURE AND CAUSES  
OF THE  
WEALTH OF NATIONS.

---

BY ADAM SMITH, LL. D. AND F. R. S.

Formerly Professor of Moral Philosophy in the University of Glasgow.

---

IN THREE VOLUMES.

---

VOL. I.

---

DUBLIN:

Printed for Messrs. WHITESTONE, CHAMBERLAINE, W.  
WATSON, POTTS, S. WATSON, HOEY, WILLIAMS, W.  
COLLES, WILSON, ARMITAGE, WALKER, MOONCRUEFFE,  
JNKIN, GILBERT, CROSS, MILLS, HALLHEAD,  
FAULKNER, HILLARY, and J. COLLES.

---

MDCCLXXVI.

の名前は、その両者に通じてゐる。もし一七八五年刊行のダブリン本を以て、ロンドン本の版權侵害だと斷じて差支ないならば、このダブリン發行の謂ゆる第一版も、等しく版權侵害本に屬するものであらう。

ダブリン刊行のものに、この第一版のほか、なほ第二版、第三版と稱するものありや否や、猝に斷ずることは出来ぬけれども、もし何處からも其の實物が出て來なければ、最初からダブリン本には、第二版及び第三版がなかつたものと推定して、恐らく間違あるまい。といふ譯は原本の第二版は第一版と甚しき差異を有たぬのであるから、もしダブリン刊行のものが營利業者の單なる僞版であるとすれば、強いて第一版の字組を改める必要がないからである。なほダブリン版は、原本の第三版を複刷して之を第四版と號してゐるのだから、そのダブリン版に第三版がないのは、當然であらう。

極めて些細のことながら、スミス記念會の各地において開催された事を機會として、茲に以上のことだけを記録して置く。もし更に何人かの注意により、一層精確なる事實を知ることが出来れば私の喜びとするところである。